

## 編集後記

小生は、折りにふれて、愛大本館や短大本館周辺での散歩や、「哲学の森」ないしは研究館に隣接する「野鳥の聖域」でバード・ウォッチングを楽しんでいる。梅雨の季節に咲く、木立の中の紫陽花は味わい深く、うすむらさきの「絞り」をかすめ飛ぶ鳥たちも様々である。町畑のこじんまりしたこの緑地にも、けっこういろいろな種類の鳥がくるものだと思う。

ところで、短大本館そばの木造トイレが、建て直しということで先日壊された。壊される直前に「使用禁止」の張り紙に出くわしたので、用を足すのも忘れて、あわてて管財課へ駆け込んだ。コンクリートで固めた味けの無いトイレが出現し、愛大キャンパスの中でもなかなか風情のある短大本館周辺の景観が損なわれるのを、ひどく恐れたからだ。だが、建築計画を聞き、設計図を見せてもらうと、短大本館およびその周辺景観との調和を前提に、鉄筋コンクリートではなく木造の建物が考えられていることを確認できた。少々、取り越し苦労をってしまったようだ。

丘陵地形を活用した名古屋新校舎（三好）のような、立体的で潇洒な現代建築もよいが、豊橋キャンパスのように、「歴史的遺産」として価値のある木造建築と緑が調和した空間も捨て難い。旧第15師団司令部であった愛大本館も老朽化が進み、だんだん維持が難しくなっているが、なんとか大切に修理・保存し続けていきたいものだ。

もうすぐ夏休み。私達の研究成果である文学論叢第88輯をここにお届けする。

(H・T生)

昭和六十三年六月二十日 印刷  
昭和六十三年六月二十五日 発行

(非売品)

編者 愛知大学文学會

代表者 湯本和男

印刷所 豊橋市東森岡  
有限会社三愛企画

発行所 豊橋市町畑町  
愛知大学文学會

振替 名古屋三十四五六五四